

I LIKE IT

大切な家族

齋藤 利佳シッター



私の人生にはいつも猫がいます。
みんな縁あって私の家族になった保

護猫です。増えたり減ったり、昨今の今ごろまでは10匹いましたが、今は19歳を筆頭に7匹です。家族が多いと楽しい事と同じくらい心配なこともあります。病院通いもあるし、頭数分の看取りもあります。時々、なんでこんなにたくさん飼ってしまったんだろう…と思う事もあります。猫がいない生活ってどんなに自由気ままだろう…そんな風に思う事もあります。命と向き合う日々ですが、やっぱり猫たちは可愛いし、私の大切な家族です。



今、気持ちよさそうにゴロゴロと喉を鳴らしながら私の肩に乗っているのは18歳になるふうちゃんです。料理をしてもミシンをしてもピアノを弾いていてもいつもきます。

昨年息子が結婚して可愛いお嫁さんも家族の一員になりました。そしてもうすぐ赤ちゃんも産まれる予定で、私の家族は大人4人と赤ちゃんと猫7匹の大所帯になります。猫たちは赤ちゃんを見てどんな風に思うかしら？ちゃんと可愛がることできるかしら？と大切な家族が増える日が待ち遠しい今日この頃です。

ウィズ ストーリー



仕事と子育ての両立ってなかなか大変です。働き方の多様化に伴い在宅勤務も増えています。在宅で仕事をしながら我が子をみている経験もあるのではないのでしょうか。在宅していても仕事は仕事、片手間にはできません。また、お迎えが保育園や学校の終わる時間にはどうしても間に合わない、といったこともありますよね。助けになってくれるシッターがいると、時間がまわりますか？仕事に集中できますか？

お勤め先が「ベビーシッター派遣事業」の割引券を取り扱っていらっしゃたら大変お得にご利用いただける電子チケットがあります。ご確認をしてみてください。

ウィズで取り扱っている電子チケット

全国保育サービス協会が発行している電子チケット
こども家庭庁の仕事と子育ての両立支援事業。協会に加盟している会社の従業員のご家族が利用可能。両親が仕事上の小学校3年生までのお子様を対象。シッティングおひとり一日4,400円分（ウィズなら赤チケット2枚分）が補助してもらえます。（ひと月に一家庭24枚までご利用可能）。

※(株)ベネフィット・ワンの「すくすく倶楽部」の補助券もご利用可能。

※詳しい条件やご利用方法はウィズホームページか、お電話等でお問い合わせください。

2025年
3月号
Vol.141

Free Paper
Memorandum



With Your Smile
~愛情豊かなベビーシッターと優しい笑顔の家事お手伝い~
ACSA 全国保育サービス協会

有限会社 ウィズ

〒346-0022
埼玉県久喜市下早見1125-33
TEL 0480-23-4196
FAX 0480-23-4099
<https://withbaby-wish.com>



一般社団法人
日本育成子ども協議会
Japan Child Upbringing Conference



多様な働き方実践企業



20年程前、全国保育サービス協会顧問弁護士S先生を都内に訪ねて契約書等の文章をご相談したことがあった。「社会的な事業をするということは、一つ一つが信頼を得られるよう誠意のある仕事が契約そのものよりも大切」と諭された。毎年、経営者研修会で講師をされて横を通り過ぎる時会釈程度のご挨拶と年賀状にて近況報告を続けていた。

2025年正月、突然電話を頂く。「菊地さん頑張っているね、何時も久喜駅で乗り換える時にあ〜活躍されているんだなと思っていただんだ」私は受話器を持って立ち上がり一礼し「先生、覚えてくださっていたのですね、ありがとうございます」見守ってくださる方が存在する！気持ちが奮い立った。

★市川麻紗子の記事『ウキウキの見つけ方』は“みんなと同じがよい？”です。

★ウィズストーリーの特集もご覧ください。

ウキウキの見つけ方

みんなと同じがよい?

市川 麻紗子

私は物心ついた頃から母に「あなたは変わっているから」と言われてきました。自分では、どう変わっているのかなんて分かりません。何でも全面的に応援はしてくれましたが、母の言葉が、私に対する世間の評価のような気がしていました。

例えば、中学生時代お年玉をためて買った天体望遠鏡で星のウォッチング。一般家庭の子どもが買えるなんてすごいことでした。

その後は変わっている部分の芽が伸び、制服がない高校に行く!!ということで、めでたく制服のない学校へ。その芽がプラスに変わったのは、美術の勉強を始めた頃でした。周りに個性の塊のような友達がたくさんいて、そこで青春を謳歌しました。



さて、それから時が経ち、折り紙で素晴らしいバラを折るAさんと、紙で本物のような花を作るKさんと友達になりました。二人とも素晴らしいテクニックと個性を持っています。Aさんは、ユニット折り紙という作り方を考案した世界的な折り紙作家、布施知子さんのお弟子さんです。Kさんは、宝塚のカレンダーに作品が使われました。

学校では、個性を尊重し伸ばすことを目標に掲げているところがありますが、実際は全体主義的で、みんなと同じがよいという日本ならではの教育方針が目立ちます。日本の学校では、みんなと同じならいじめにあわないと考えたり、規則も生活指導も基準に合わせてその範疇に入れ込もうとしているように見えます。

それとは逆に、例えばスコットランドの小学校は時間割がありません。教師がクラスの様子を見て1日のカリキュラムをデザインします。またトピック授業というものがあり一つのテーマを決めて深く学んでいきます。生徒の数だけテーマがあるので個性を活かすだけでなく視野も広がります。

日本でも、時間割や通知表がない学校もあります。その学校のために移住する人さえいます。

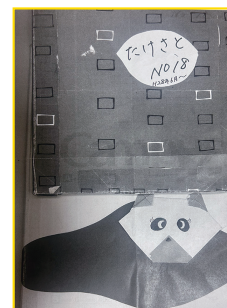


子どもの数だけ個性がある。変わっているところがあるからこそ興味を持って接することができる環境作り、そこに目が向くとよいと思います。

お子さんの行動や言葉で、いいことを言っている時には、その言葉、行動を認めることが大切です。他の人と違って、自分の考えを言ってもいいのだとまずは思ってもらいたいです。話がズレた場合は、軌道修正してあげましょう。自分の考えを口にできることはすごいこと、小さい時から教えていってほしいと思います。

まずは、目を見ながら話す事が大事では。

日常の中のハシの日



猪股 千代子シッター

長い事生活して数十年、振り返るとあれこれと思い出されます。記録を書き残せる日記、手紙、メモ等20代初めに知り合った仕事仲間

とシニアになった今でもずっとノートの交換リレーが続いています。45年位秋田、新潟、群馬、茨城、埼玉(2人)にそれぞれ在住の6人です。

きっかけは、せっかく知り合いになり楽しく仕事をしてきたのにこれっきりでは悲しいという思いから、何でも良いから書いてノートを廻そうということになりました。そして5~6年が過ぎた頃、上野の西郷さんの像辺りで待ち合わせ。6人揃っての再会でした。それぞれ我が子も連れてわいわいガヤガヤ大変な騒ぎでした。その後も職場の長だった方が賞を頂いた記念に再会。更に月日が流れ、我が子達の手が離れたタイミングで宿泊もしました。年を重ねると、今度は両親が高齢になるので参加できる人だけになりますが、状況の変化に伴いノートも期限を長くして楽しんでいます。20代から70代のメモリー、昭和、平成、令和へと…。